

# 令和7年度 地方応援隊活動報告書

～霞が関の若手職員による市町村の課題解決支援～



農林水産省

- **地方応援隊**では、**条件不利地域の小規模市町村**に「**隊員**」として**1自治体2名程度の若手職員**を割り当て、年に1、2回の現地訪問や月1回程度のWeb会議等を通じて、**地域課題を整理**し、その**解決策などを提案**しています。
- 現在、**国土交通省24名、農林水産省21名**の計45名が、**全国20市町村**を対象に活動しています。
- 本報告書は、隊員が活動を通じて感じた**担当自治体の魅力ポイント**についてお伝えするとともに、その**地域が抱える課題**、隊員の**活動内容、取組の成果**及び**今後の展望**などについて報告するものです。

## 地方応援隊活動対象市町村

### 令和5－7年度

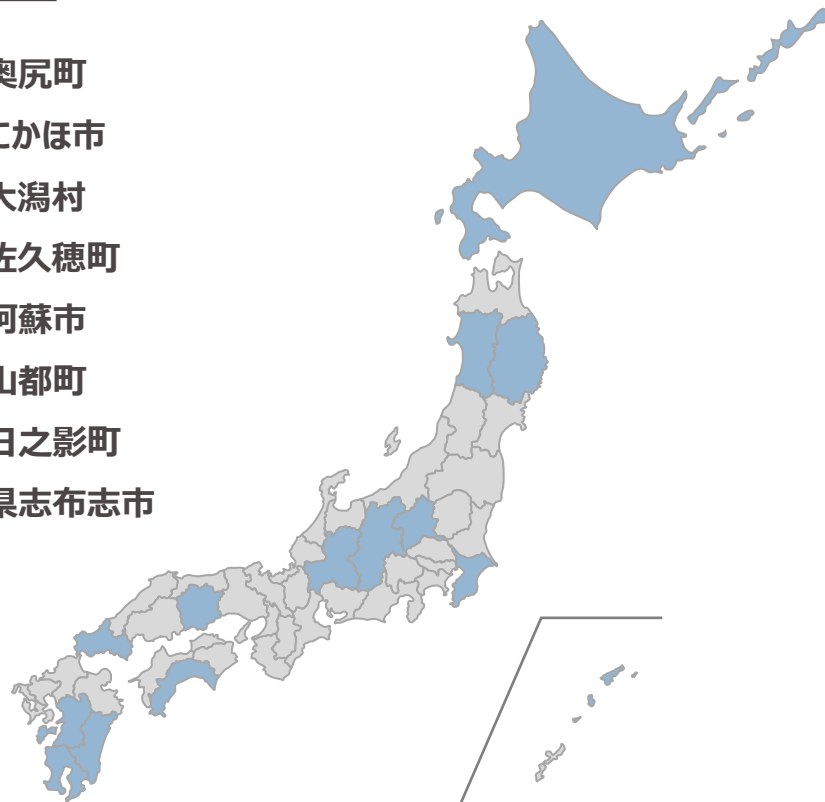
- 01 北海道蘭越町
- 02 岩手県久慈市
- 03 長野県飯山市
- 04 岡山県井原市

### 令和6、7年度

- 01 北海道中富良野町
- 02 北海道滝上町
- 03 群馬県沼田市
- 04 千葉県鋸南町
- 05 岐阜県郡上市
- 06 山口県長門市
- 07 高知県安田町
- 08 熊本県産山村

### 令和7、8年度

- 01 北海道奥尻町
- 02 秋田県にかほ市
- 03 秋田県大潟村
- 04 長野県佐久穂町
- 05 熊本県阿蘇市
- 06 熊本県山都町
- 07 宮崎県日之影町
- 08 鹿児島県志布志市



隊員情報：小貫 えみり (農村振興局 防災課)、坂本 祐麻 (国土政策局 地域振興課)

## 蘭越町の魅力ポイント ■面積 449.78km<sup>2</sup> ■人口 約4,400人 ■指定地域 過疎、振興山村、特豪

- ニセコに隣接する地域として尻別川をはじめとする川、山、海すべてがそろった自然豊かな町
- 町内で生産している「らんこし米」は、全国各地のお米グランプリで入賞実績があり、美味。また、蘭越町では毎年、全国米-1グランプリを開催しており、米の町としてのブランド化に力を入れている！
- 米だけでなく野菜、ワイン用ブドウ、薬草などの農産物やその加工品が作られており、すべてがおいしい！令和7年には、町内で「らんこし米」を原料にスパークリング日本酒の醸造も開始。
- 町内には7つの温泉郷があり、それぞれ良質で異なった泉質が堪能できる！



米をおかずにご飯が進む！らんこし米



新たな特産品！リモーチソの加工品



温泉が湧く！大湯沼



らんこし米のスパークリング日本酒

## 蘭越町の課題

### ■ 政策分野 農作物のブランド化、観光振興、新規就農

- 町名及び「らんこし米」について、全国的な知名度が低いため、PRの検討が必要
- 町の観光マップが更新されていないため、観光客は最新の情報の把握が困難
- 町が民間企業と連携した薬草事業において開発した商品の販路拡大やブランディング、老朽化した米関連施設の更新が必要
- 町として農業振興を推進しているため、新規就農者の確保が必要

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 4月：webで役場と打ち合わせを行い、町の課題・方向性を確認
- 6月：現地調査を実施し、薬草事業に携わる民間企業の試験ほ場、土産物用加工センターの視察及び役場職員や地域おこし協力隊OBらと意見交換するとともに、問題の深掘りを実施
- 10月：「らんこし米」を農家自ら販売するイベント「らんこし新米まつり」の視察及び関係農家との意見交換。1泊2日の町内観光モデルコースを意識した現地視察を実施

### 取組みの成果

- 町の新たな取組みである薬草事業の推進に有効な支援制度を探し出し、町に情報を提供
- リモチーソ（新種のシソ）を活用した新商品の風味やキャッチフレーズについて意見提案
- 現地調査を踏まえた観光資源の整理、外部からの視点を盛り込んだ、観光客を呼び込むための入口となる新たな町内観光マップの案（「蘭越町1泊2日モデルコース」及び「推しお土産リスト」の追加）を提案。

### 今後の方針

- 地域のブランド化について、販売促進やマーケティング等に係る課題を深掘りし、方向性及び対応案を検討・提案



## 久慈市の魅力ポイント

■ 623.5 km<sup>2</sup> ■ 約3.1万人 ■ 過疎地域、特定農山村地域

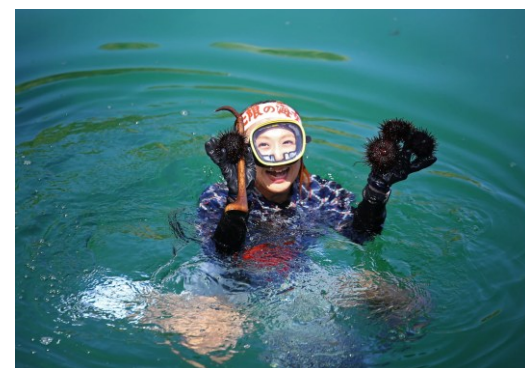
## 歴史 琥珀と恐竜の眠る太古のロマン

恐竜が生きていた時代の地層から琥珀や古代生物の化石が発掘される太古のロマンを感じられる地域。琥珀の発掘量は日本一。



## 観光 じえじえじえ！？海女さんの聖地

NHK連続テレビ小説「あまちゃん」のロケ地として2016年からロケツーリズムに取り組む。小袖海岸で活躍する「北限の海女」も人気。



## 美食 海と山に恵まれた久慈ブランド

通称エリート牧場で放牧される「山形村短角牛」や2019年から養殖試験を開始した「久慈育ち琥珀サーモン」をはじめとする特産品あり。



## 久慈市の課題等

### ■ 政策分野：移住・二地域居住、地域交通等

- 深刻化する人口減少や少子高齢化による産業活動やコミュニティの維持等が最大の懸案事項。
- こうした状況に歯止めをかけるための取組として、出生率の向上と、特に若者の転出の抑制並びに転入の促進により、将来の人口減少の抑制や生活サービス維持に取り組むことが重要。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 令和5年度に現地訪問を2度実施し、学校給食センター、各種観光施設、移住関連施設、現地民間企業（農林業・食品分野）を視察。輸出関連施策や二地域居住促進法等を紹介（前任者）。
- 令和7年7月に現地訪問を実施。「久慈琥珀博物館」や「小袖海女センター」、「白樺美林」などの観光施設や、「道の駅いわて北三陸」を視察。地域交通にも大きな課題を感じていることを聴取。月1程度でMTを実施。

### 取組の成果

- 現地のニーズや課題を踏まえ、関連施策や優良事例等を紹介。
- 移住・定住の促進、地域交通、農泊や農山漁村振興交付金活用に関する意見交換実施。

### 今後の展望

- 二地域居住を含めた移住・定住の促進、地域交通や農泊等、地域産業・地域コミュニティを維持するための取組について、幅広く情報提供し、市の活性化に寄与する。



## 長野県飯山市の魅力ポイント ■面積 202km<sup>2</sup> ■人口 約1.8万人 ■指定地域 特定農山村(一部)、過疎、特別豪雪地帯

- 平成27年に北陸新幹線が開通したことで、**東京駅から100分**とアクセスが良くなった。
- 宝島社『田舎暮らしの本』が2023年版「**住みたい田舎**」ベストランキングで**全国ベスト3**にランクイン。
- 平成18年から現在までの**移住者数は約1400人**となっている。
- 飯山市は**豊かな自然と四季の美しさ**がある。  
菜の花や里山の山野草が咲き乱れる春  
山と田んぼの緑に包まれる夏  
黄金色の稲穂が揺れ、鮮やかな紅葉に染まる秋  
一面が銀世界に包まれる冬
- **トレッキング、スキーに温泉**を楽しむことができる。
- 特産品は**お米(コシヒカリ)、アスパラガス、みゆきポーク**



## 飯山市の課題

## ■ 政策分野 農業振興

- 柳原地区は 20 年前より農事組合法人を設立し、水稻を中心に農地の集積を進めてきた地域であるが、下記の課題がある。
  - ほ場整備から50年近く経過し、農業用施設の老朽化が進むが、土地持ち非農家が多いことや、**基盤整備の農家負担が懸念**され、議論が進まない。
  - 多面的機能・中山間地域支払に取り組むも、高齢化により農地の**保全活動への不安**がある。
  - 農事組合法人の高齢化が進み、**後継者の不安**がある。
  - 水路の老朽化等により、水田への**十分な用水が確保できない**。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- R7 : WS「柳原地区の農業を考える会」に参加し（1月）、  
フォローアップとして「WSで見据えた30年後の未来を実現するために」グループワークを主催（8月）。  
**基盤整備実施に向けたアンケート調査の項目を提案**、生産者との意見交換会を実施（10月）。  
市役所職員を対象に、長野県職員を講師に招いて農村RMO勉強会の開催（12月）。
- R8 : アンケート調査結果の報告会を実施。アンケート結果をもとに意見交換会を実施。  
地方応援隊からハード面とソフト面の取組について叩き台を作成し、それをもとに地元農家、県職員を含めて意見交換。  
**草刈作業の省力化と水利施設の改修を主とする方針で決定**。（1月）

### 今後の方針

- R8 : 地元の協議会において今後の方針について決定予定。（3月）  
来年度も地方応援隊への参画を希望しており、地方応援隊へ市として再応募予定。  
（来年度は、基盤整備の実施に向け、事業申請にむけた地元の合意形成支援を継続予定。）

## 井原市の魅力ポイント

■面積 243.54km<sup>2</sup> ■人口 約3.7万人 ■指定地域 過疎

## ■【井原デニム】国産デニムのルーツ！「デニムの聖地」

江戸時代から藍染織物の産地として発展。欧米のバイヤーから絶賛されており、ヨーロッパの有名ブランドやアメリカの高級ジーンズアパレル向けに多く輸出。2019年、地域団体商標登録。

【ポスター】井原デニム  
(提供/井原商工会議所)



## ■【美星の星空】天文学者が選んだ！「日本三選星名所」

天体観測の好適地、美星町。1989年に国内で初めて光害防止条例を制定し、星空保護の先駆的役割を長年リード。2021年、アジア初の星空保護区(コミュニティ部門)に認定。



【写真】美星天文台と美星の星空  
(提供/美星天文台)



【ポスター】井原のぶどう

## ■【ブドウ・明治ごんぼう・美星満天豚】優れた農産物！

\*「くだもの王国おかやま」が誇るブドウ作りに適した気候や土地に恵まれた、西日本有数の産地。品質の高さと厳選な選果・選別により、消費者や市場関係者等から高い評価。

\*約250年の歴史がある、粘土質の赤土畑でじっくり育った、きめが細かく筋張っていない、香り高いゴボウ。2017年、イオンリテール(株)のフードアルチザン(食の匠)活動を始動。2021年、地域団体商標登録。

\*世界が認めた星の郷「美星」で育てた極上の豚肉。飼料にコメを混ぜた特別な飼料が与えられた豚は、透き通るような脂と、きめの細かい肉質が特長。2022年、商標を取得。



【ポスター】明治ごんぼう



【ポスター】美星満天豚  
(提供/「A 晴れの国岡山」)

## 井原市の課題

## ■ 政策分野 地域振興・地域活性化

## 「賑わい創出拠点」の整備

- 井原市芳井地区では、**人口減少、少子化・高齢化の進展**に伴い、**医療、福祉、産業、公共交通**など広く問題が発生。県が行う橋梁の架け替え事業に伴い、地区内唯一のスーパーが閉店。
- 地元スーパーの代替機能のほか、**交流人口増加、防災体制の強化、産業の活性化等を目的とした「賑わい創出拠点」の整備を予定。** ⇒道の駅、公園等の機能を有する施設を整備。

## 廃校の活用方針の検討

- 令和4年末に廃校となった校舎を活用したまちづくりの推進の検討。

## 応援隊の活動報告

## これまでの活動

- 7月：賑わい創出拠点候補地や、主要観光地、廃校等を現地調査。
- 不定期でのオンライン打合せを実施。  
→国交省主催のサウンディングや、DBO方式で整備された道の駅の事例等の情報共有

## 現地調査後の井原市での動き（賑わい創出拠点）

- 7月（国交省主催）、8月（市主催）にサウンディングを実施（延べ25社参加）。
- 9月末：公募型プロポーザルの募集開始（アドバイザリ業務）。土地利用に関する条件調整のため10月に募集中止、現在調整中。

## 今後の方針

- 引き続き情報共有を図り、市が必要とする情報等を提供する。

県指定名勝の天神峡



賑わい創出拠点候補地

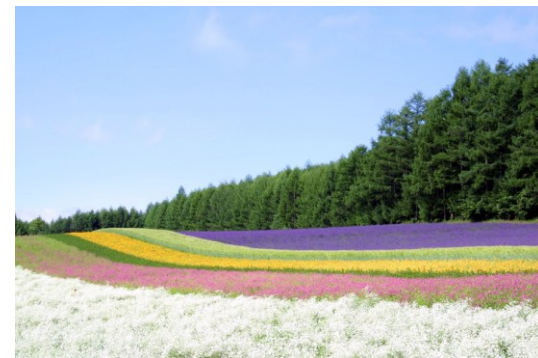


## 中富良野町の魅力ポイント

■ 面積 108.65km<sup>2</sup> ■ 人口 約4,300人

### ■ ラベンダー観光発祥の地

- ・全国的に有名なファーム富田がある
- ・北星山ラベンダー園の観光リフトで空中散歩
- ・ラベンダー最盛期にラベンダーまつり&花火大会



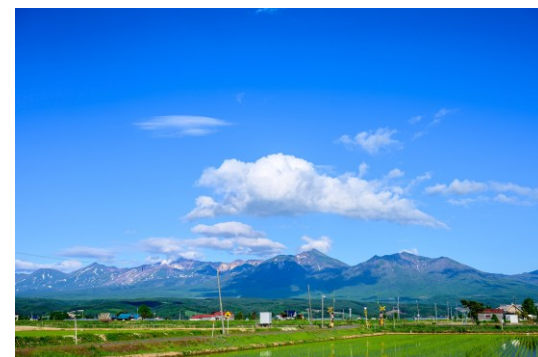
### ■ 道内有数の農産物の宝庫

- ・豊かな自然環境を活かした農業を推進する「クリーン農業推進のまち」
- ・町内生産量No.1 冷めても美味しい特A米「ななつぼし」
- ・盆地がつくる昼夜の寒暖差を利用した糖度の高い「ふらのメロン」
- ・玉ねぎ、ジャガイモ、カボチャ、スイートコーン、アスパラ等の多品目の野菜を生産



### ■ 豊かで美しい自然環境、風景を誇るまち

- ・十勝岳連峰、芦別岳と雄大な山々に囲まれている
- ・水田を中心とする美しくのどかな田園空間
- ・北星山から一望できる町並み



## 中富良野町の課題

■ 政策分野 地域振興・都市計画整備

- 深刻化する人口減少や少子高齢化対策
- 駅周辺施設の空き家等の活用、町の中心部への人の流れ創出 (中富良野駅～主要観光施設間)
- 役場庁舎周辺施設の公共施設の再編と有効活用
- 子育てしやすい環境整備、住宅・住環境の整備



## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 令和6年5月活動開始。数か月1回程度のWEB打ち合わせや定期的な意見交換・情報提供を実施。
- 令和6年度には現地訪問を2度実施。町営ラベンダー園、老朽化公共施設等、各種観光施設 (富田ファーム)、関係人口交流施設 (まちなかオフィス)、現地民間 (ナカフまちづくり(株))、地酒祭を視察。
- 令和7年度の現地訪問では、中富良野町暮らし体験プログラム用宿泊施設の宿泊検証や地域おこし協力隊・先駆移住者・旭川信金との意見交換、なかふらの学園校舎落成イベント視察を実施。
- 四国4県からのアクセスが良く、子育て支援に力を入れている高知県大豊町の移住コーディネーターとWEB会議を開催。移住施策の状況、取組内容を伺い、意見交換を実施。



### 今後の展望

- 住環境整備については、移住を希望する子育て世帯を呼び込める住環境の整備の取組を後方支援。町の中心部への人の流れ創出については、町職員および地方応援隊双方において意見出しを行い、一定の成果を目指す。
- 二地域居住の推進に関する取組や、観光案内所 (令和7年度竣工予定) の効果的な運用への伴走支援。

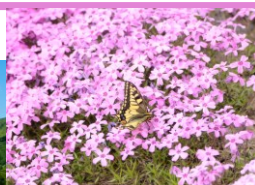
隊員情報：吉見 奈津歩 (農村振興局 農村計画課)、小野寺 卓 (国土政策局 総務課)・森 祐太 (国土政策局 総合計画課)

## 滝上町の魅力ポイント

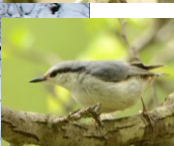
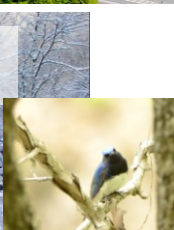
■面積 766.89 km<sup>2</sup> ■人口 約2,200人 ■指定地域 過疎・豪雪

### ■観光資源

・全国屈指の芝ざくら公園  
【面積は10万m<sup>2</sup>で日本最大級】



・四季折々の景色となる滝上溪谷「錦仙峡」



・約300種以上のハーブを栽培する香りの里ハーブガーデン



### ■特産物



- ・和ハッカ  
→日本一の和ハッカ香るまち (和ハッカ生産量日本一)
- ・小麦、甜菜、紫蘇など  
→盆地特有の寒暖差の大きい気候で高品質な農作物を産出
- ・林業  
→町の林野率は約90%で、古くから林業が盛ん  
木質バイオマスの利用など、先進的な取組にも挑戦中



### ■移住

- ・たきのうえびより  
→町に関する情報発信、地域おこし協力隊
- ・ちょっと暮らし住宅  
→短期移住体験



## 滝上町の課題

## ■ 政策分野 観光振興・移住施策

## ■ 人口減少による、担い手不足

農林業、観光・サービス業などの担い手が不足  
町職員の減少により、多様化する業務への  
対応力が課題

## ■ 特産品「和ハッカ」の知名度・ブランド力の向上

日本一の生産量を誇り、可能性に溢れている



## ■ 町役場での情報収集力の強化

移住施策に関する情報

(町に移住した理由や、発信すべき情報など)

観光関係の訪問者に関する情報不足

(芝ざくらまつりなどの訪問者に関する情報など)

町職員の町内(町民)に関する情報不足

(特に若手職員)



## 応援隊の活動報告

## ■ これまでの活動

- ・2か月に1回程度のWEB会議を実施
- ・計3回の現地視察を実施し、町役場の各部署や観光協会との意見交換を実施
- ・国の補助事業等に関する情報提供を実施



## ■ これまでの主な成果

- ・町HPにおける広報情報の拡大(意見出し)
- ・町職員の国交大研修(まちづくり関係)受講
- ・芝ざくらまつりにおけるアンケートの実施(予定)

## ■ 現在の取組(検討中の内容)

- ・町職員の町内に関する理解の促進  
→町職員(特に若手)が町内イベント等に  
参加し、町民の活動等を知るきっかけを作る。
- ・業務見直しの実施  
→全庁的な業務の整理・統廃合等に係る  
検討を行う。
- ・移住施策に関する情報収集、情報発信を実施  
→転入者へアンケートを実施し、移住検討者  
向けに発信する情報や手法を精査する。

## 沼田市の魅力ポイント

■面積 443km<sup>2</sup> ■人口 約4.4万人 ■指定地域 豪雪地域

## 豊かな自然



河岸段丘



玉原湿原



吹割の滝

## フルーツ狩り



## 東京から好アクセス

新幹線：東京⇔上毛高原 60分

高速道路：練馬IC⇔沼田IC 90分

## 沼田市の課題

## ■ 政策分野 森林活用、職員研修

- 沼田市は、**全国初の森林文化都市宣言を行った市**として、森林整備、脱炭素、及びG D Xといったテーマに基づいて調査・研究を行い、市が今後採るべき戦略や立ち上げるべき新規事業について記載した森林文化都市アクションプラン (AP)を令和7年1月に策定。令和7年度は、APで採用した事業計画案の具体化に向けた検討を進める。
- APの特長として、**40歳未満の市職員で構成した委員会がプランを内製**しており、若手・中堅職員の**O J Tを通じたタスク管理能力、プレゼンテーション力、調整力の向上も目的**としている。
- 市職員による検討のため、**検討の内容が一方向に向きがち**。応援隊員はアドバイザーとして参画し、国（外部）の視点からの助言・情報提供や委員との意見交換などを行う。

## 応援隊の活動報告

令和7年6月	第1回事業計画案ヒアリングに現地参加
令和7年7月	農業分野の事業計画案の具体化に向け、群馬県拠点との連携検討に着手
令和7年9月	第2回事業計画案ヒアリング（オンライン参加）
令和7年12月	第3回事業計画案ヒアリング（オンライン参加）
今後の予定	今後の取組に向けた検討

隊員情報：氏家 みお (新事業・食品産業部商品取引G)、天沼 理穂 (国土政策局 地域振興課)

## 鋸南町の魅力ポイント ■面積 45.17km<sup>2</sup> ■人口 約6,600人 ■指定地域 半島・特定農山村・過疎

- 千葉県の南西部に位置し、東京からは高速道路で80分、フェリー、JR線で約2時間の好アクセス。

### 道の駅保田小学校

- 平成26年3月に廃校となった町立保田小学校を小学校の雰囲気を残しつつリノベーションし、平成27年12月に「都市交流施設」として開業。
- 学校らしさを生かした施設が人気を集めており、2024年全国道の駅ランキング2位の人気観光スポット。



鋸南町



教室に宿泊することができる！  
黒板アートも大歓迎 🎨✍️



道の駅とは思えない敷地の広さ！



懐かしい給食を再現

### 鋸山

- 日本百低山の1つで、町名の由来にもなっている。  
採石場跡など観光スポットが多く、ロープウェイもあり、気軽に登ることができる。
- 鋸山日本寺にある「薬師瑠璃光如来」(総高31.5m)は、座像の石仏として日本一の大きさを誇る。



断崖絶壁から景色を眺められる  
「地獄のぞき」

## 鋸南町の課題

### ■ 政策分野 観光・関係人口創出

- 道の駅保田小学校をはじめ多くの観光資源を有するものの、関係人口・定住人口の増加に結びついておらず、少子高齢化に歯止めがかからないことを危惧。
- ◇ 高齢化や運転手不足の深刻化などにより、地域公共交通の確保・維持が困難。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 月 1 回程度のオンライン打合せと年数回の現地視察を実施。直近では 1 月末に出張。
- 観光客向けのニーズ調査アンケートを考案し、関係者ヒアリングを経て設置したほか、道の駅指定管理者及び地域ボランティア団体と農業体験・交流イベントの実施に関する意見交換を行った。
- ◇ 地域公共交通の確保・維持に関する課題の分析や、活用できそうな国の制度・参考事例の紹介を行った。

### 取組の成果

- 観光ニーズ調査アンケートでは既に多数の回答を得ており、今後の地域振興施策への活用が期待される。また、アンケートの設置過程では多くの町内関係者を巻き込むことで、町おこしの機運醸成の一助を担った。
- 交流イベントの企画を具体化するにあたり、関東農政局経由でノウハウを持つ人材とのコネクションを作った。

### 今後の展望

- 年度内に交流イベントの企画案を応援隊から町内関係者へ提出予定。また、次年度に交流イベントの試走版を企画できないか、関係者側で検討・調整中。
- ◇ 現在町が取り組んでいる地域公共交通計画の策定を踏まえて、改善策や国等の制度の活用を引き続き検討。

## 郡上市の魅力ポイント

■面積 1030.8km<sup>2</sup> ■人口 約3.7万人 ■指定地域 過疎・豪雪

## ■ 踊りつつむぐ、独自の文化・歴史

- ・郡上おどり (日本三大盆踊り、R4.11.30 ユネスコ無形文化遺産に登録！)、  
白鳥おどり (「白鳥の拝殿踊」はR7.3.28 国の重要無形民俗文化財に指定！)



## 【応援隊員が参加した感想】

老若男女問わず大勢で踊る一体感が楽しい！  
ひたすら無心で踊るのでリフレッシュになる！  
観光客でも踊っているうちに地域に溶け込める  
美しい街並みの中踊るとタイムストリップしたかのような  
下駄で地面を蹴りならず感覚や響く音が気持ちいい！



- ・“小京都” 郡上八幡 (重要伝統的建造物群保存地区)
- ・郡上八幡城 (日本最古の木造再建城)
- ・古今伝授の里 (和歌)

## ■ 豊かな自然がもたらす、多彩な食

- ・郡上鮎 (清流・長良川に生息) ・鶏ちゃん (こく旨)
- ・漬物ステーキ (漬物を醤油等で炒めたもの) など



## ■ 四季を通して楽しめる、美しい自然

- ・長良川、吉田川を中心とした水の町 (水とともに歩んできた暮らし)
- ・市全域の9割を占める山々 (今も残る里山の風景)
- ・白銀の世界 (西日本最大級のスノーリゾート)



## 郡上市の課題

### ■ 政策分野 関係人口の創出

#### ■ 郡上おどりの保存継承

- ・ 郡上おどりは、全国から多くの観光客が訪れる一大伝統行事である（令和7年度の来場者数は約25万人）。
- ・ 郡上おどりの参加をきっかけに関係人口となり、移住に至るなど郡上市の関係人口の創出・拡大に寄与している。
- ・ 他方で、近年、少子高齢化やライフスタイルの変化などにより、後継者・担い手不足が課題となっている。
- ・ 上記の課題に対し、令和6年度に策定された「郡上おどり保存活用計画」に沿って、保存継承に向けた取組が進められている。令和7年度は、安定的な運営財源を確保するための「郡上おどり投げ銭」の導入、また、担い手不足等を解消する取組として、ボランティアチームにより「郡上おどりサポーターズクラブ」が発足した。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- ・ 1～2ヶ月に一度のオンラインor対面での打合せ
- ・ 5月に秩父宮ラグビー場（東京都港区）で開催の「郡上おどりin青山」を視察
- ・ 8月に現地訪問による意見交換と市内の視察

### 活動成果

- ・ 関係人口の創出・拡大につながる国の施策等や、市の他の施策に活用できる国の施策の紹介
- ・ 郡上おどりの保存活用に向けた意見交換及び施策提案

### 今後の活動方針

- ・ 引き続き、関係人口の創出・拡大につながる国の施策等の情報提供・意見交換
- ・ 郡上市の地域課題解決に関わる都市部人材とのつながりづくりに関する事業への支援の実施

隊員情報：伊藤 愛真 (輸出・国際局 規制対策グループ)、浅上 あゆみ (国土政策局 総合計画課)

## 長門市の魅力ポイント ■面積 357.31 km<sup>2</sup> ■人口 約3.0万人 ■指定地域 振興山村、特定農山村、過疎

### ■ 音信川沿いに広がるオト天国「長門湯本温泉」

→地域のシンボル「恩湯（おんとう）」や話題の「界 長門」に加え、山口県初となる川テラスや飛び石、街中を照らす幻想的なライトアップ、レストランやカフェ等が続々開業。民間主導の公民連携により、温泉街の“リノベーション”を実施。

### ■ 濃厚水素の美肌名湯と外湯文化が作り出す独特な街並み「俵山温泉」

→湧出量の少ない良質な源泉を維持するために、俵山温泉の旅館にはほとんど内湯がない。江戸時代から続く老舗旅館や木造旅館が軒を連ねる温泉街を散策しながら共同外湯温泉へ。

### ■ アメリカCNN「日本の最も美しい場所31選」に選ばれた「元乃隅神社」

→海岸から鳥居123基が100m以上にわたって並ぶ姿が印象的。赤い鳥居と青い海のコントラストが美しい、絶景が自慢の神社。

### ■ 人口1万人あたりの店舗数は日本トップクラス！「焼き鳥」

→長門市の焼き鳥は長ねぎではなく玉ねぎが使われ、ちぎったキャベツと一緒に提供される。卓上にはガーリックパウダーが置かれている店が多く、一味や七味唐辛子と合わせてお好みで付けながら食べるという特徴もある。



(出典) <https://smout.jp/areas/17293>



(出典) <https://oidemase-Yamaguchi.jp/nishinokunikara/materials/805>

## 長門市の課題

## ■ 政策分野 観光、農林業・畜産振興

## 【観光】

- 来訪者の約8割が日帰り、宿泊は周辺の萩市や下関市、又は福岡に帰るというパターンが多く、客数の割に地域経済への波及効果が限定的。
- 観光スポットはあるものの、公共交通機関が少なく、レンタカーや自家用車以外の市内の移動が不便。
- インバウンド宿泊比率は約3%と、日本全体のインバウンド需要を取り込めていない。

## 【農林業】

- 長州黒かしわ（地鶏）、長門ゆずきち（柑橘）等のブランド食材はあるが、若手生産者が少なく後継者不足で供給量が追いついていない。
- 平野が少なく、山間部や傾斜地に農地が点在。耕作放棄地が増加し、鳥獣が増える悪循環となっている。

## 応援隊の活動報告

- 令和6年6～8月：オンライン打合せ  
(市より畜産業・観光業の様々な課題の説明、応援隊より観光拠点整備、土地の造成基本計画の策定等に活用できる補助金・交付金制度の紹介等)
- 令和6年9月：現地視察①（市長との意見交換、現況把握）
- 令和6年10月～令和7年9月 オンライン打合せ（課題設定、事例提供等）※月一程度
- 令和7年10月：現地視察②（観光コンテンツ体験、観光協会や地域住民、長門市との意見交換）
- 令和8年3月：国土政策局員が現地視察（公民連携の長門湯本温泉のまちづくり、地銀の関わり方等を調査）  
これまでの視察や意見交換を踏まえ、関係施策の情報提供や提案等を実施

## まとめ

- 昨年度の活動において、観光分野については、観光滞在日数の長期化・観光消費額の増加に向けた仕掛けづくりの提案、畜産分野については、肉用鶏と肉用牛を地域内一貫生産する畜産団地の整備に向け情報提供等を行ってきた。
- 今年度の出張で、農業分野等で後継者不足・人材不足の課題も浮かび上がったことから、年度内に二地域居住や農泊といった国交省、農水省が持つ関係人口に関する情報提供や提案等を実施。

## 安田町の魅力ポイント

■面積 52.36km<sup>2</sup> ■人口 約2,200人 ■指定地域 過疎

- 高知県東部に位置し、海・川・森の自然がとっても豊か  
海を眺めたり、川で遊んだり。安田川沿いは紅葉もとてもきれいです。
- 観光施設もたくさん、見どころいっぱい！
  - ・大心劇場
  - ・清流キャンプ場
  - ・唐浜休憩所 等
- 特産品は鮎と日本酒
- 清流育ちの安田川の鮎は、良質のコケをえさとし、全国の鮎を食べ比べる「清流めぐり利き鮎会」で2度もグランプリを受賞。

また、安田町には土佐鶴酒造と南酒造という2つの酒蔵があります。



← 唐浜休憩所

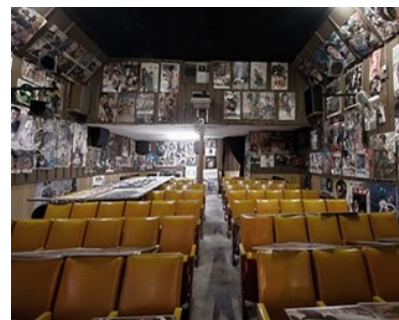


(公式HPより)

YASUDAGAWA  
(CAMP GROUND)

安田川アユおどる清流キャンプ場

↑ 安田川アユおどる清流キャンプ場



↑ 大心劇場



↑ 味工房じねんで食べた鮎の塩焼き定食

## 安田町の課題

### ■ 政策分野 中山間地域対策

#### ■ 阿南安芸自動車道（高規格道路・奈半利～安芸間）の事業化（安田～安芸間）に併せた、周辺農地や県道・町道の一体的整備

- ① 県道の付け替え、広域農道の整備。  
⇒ 新しい地方経済・生活環境創生交付金の使用を検討
- ② 農地整備の推進

#### ■ 農地整備に伴う施設園芸用農地の確保

⇒ 新規就農促進の観点から、農業従事者の費用負担を軽減する仕組みの検討

#### ■ 高齢化の加速と若者の都市部流出を背景とした、中山間地域での担い手不足

- ① ゆずをはじめとした、農作物の収穫期における労働力不足  
⇒ 農家・法人間での人材確保に向けた競争
- ② 後継者問題  
⇒ 町外・県外から呼び起こす場合は、ネットワークも含めた受入環境の整備が必要。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- これまで3度にわたり、安田町を訪問。町長、副町長、関係課に加え、地元の農家・有識者と意見交換を行った。
- 同様の課題を抱える他自治体における官民共創の優良事例を紹介。是非参考にしたいとのこと。

### 今後の展望

- Webミーティングを中心に、定期的なヒアリングを実施し、国の関係支援制度や参考になる優良事例の紹介等を進めていく。

## 産山村の魅力ポイント

■面積 60.80 km<sup>2</sup> ■人口 1372人(R6.10.17) ■指定地域 特定農山村・山村・過疎

## ○九州の中央部、山に囲まれた草原の農山村

阿蘇山、九重火山群および祖母山に囲まれ、雄大な草原が広がっている。



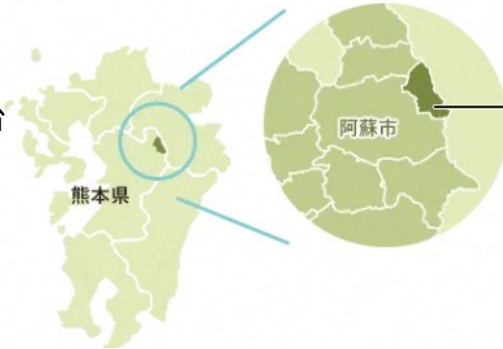
絶滅危惧種の村花ヒゴタイ



村の水道にも使われる池山水源



阿蘇、九重、祖母を望む一覽三山の台



## ○草原と湧水を生かした産業が盛ん

草原に放牧して育てた「あか牛」をはじめ畜産業が盛ん。  
扇状に広がる土地を開墾し、山吹水源から引いた水で育てる「扇田」を  
はじめとする稲作や、観光牧場、温泉などの観光資源も。



あか牛やヤマメ料理で観光客をおもてなし



湧水で育てる棚田百選「扇棚田」



R6にリニューアルし、人気のレストランとなった観光牧場

## 産山村の課題

## ■ 政策分野 公共施設等再編

### ○ 公民館等の遊休施設の活用

(現状)

- ・現在、遊休施設となっている村所有公共施設や、地域住民が減少する中での村営住宅の集約・再編が課題。
- ・活用の方法や方向性が定まっておらず、村所有ストックの維持管理に係るコスト増加が村財政を圧迫している。

(村の動き)

- ・遊休施設となっている村所有の観光施設について、指定管理者を公募・選定。(R8.3月から営業開始)
- ・村営住宅再編において、PPP/PFI、NFT/DAO等を活用した官民連携事業の実装に向けた検討(業務委託)を進めている。

## 応援隊の活動報告

### ○ 伴走にあたって方向性の検討(5月～7月)

- ・打合せを月1回程度実施。「うぶやま未来計画(2020年3月策定)」に基づく各種施策等から、今年度の伴走の方向性を決定。

### ○ 産山村発注業務への参画(8月～)

- ・国交省の先導的官民連携支援事業を活用した産山村発注業務、「公営住宅等再編に係る官民連携事業の導入検討調査業務」へ参画。協働して方向性を検討。
- ・公営住宅等再編計画の検討、公営住宅建替え事業スキームの検討、モデル団地整備事業の実施方針の検討を実施した。
- ・業務の中で、国政局施策と親和性が高い部分については、それぞれの施策窓口として紹介した。



旧「花の温泉館」を「WAQUA UBUYAMA」に改称し、民間事業者による管理・運営を開始

## 奥尻町の魅力ポイント

■ 面積 142.99km<sup>2</sup> ■ 人口 約2,300人 ■ 指定地域 離島

- 観光業がさかんでウニやアワビなどの海産物が自慢！
- 奥尻町産のぶどうの6次産業化に成功！
- 脱炭素先行地域として「サステナブル・アイランド奥尻」を目指す  
地熱発電が取り組みの目玉でエネルギーの地産地消を目指す
- 離島留学生によるまちづくりがさかん！  
地域の特産品のマルシェや物販等を高校生主体で開催
- 平成5年北海道南西沖地震の津波災害から復興
- 豊かな森林（ブナ林）も広がっている



奥尻ワイナリーの工場内



観光シンボルの「なべつる岩」とうにまるモニュメント



奥尻高校の授業風景

## 奥尻町の課題

■ 政策分野 関係人口・観光対策

- 奥尻町の離島留学は好評で定員も充足、今後は卒業後の関係構築につなげていく必要
- 地域の基幹産業である観光に対し、新型コロナウイルス感染症による来島者の減少や、公共工事の増加に伴う建設業従事者の滞在による島内宿泊施設の不足などが大きな打撃
- フェリー、バス、航空路線の赤字縮小、限られた予算内での利便性の向上が課題

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 令和5年4月に観光協会HPの改善案を提案 → 観光協会にてHPが改善
- 令和5年5月に離島留学生コミュニティ立ち上げ
- 宿泊施設確保のための意見交換や冬季の観光コンテンツ作りに関する助言などを実施
- 現地視察や意見交換を踏まえ、中長期的に取り組むべき課題と対応策を提案

### 取組の成果

- 離島留学生コミュニティが立ち上げられ、関係人口作りの土台ができた。
- 離島留学生コミュニティと奥尻高校が連携し、コミュニティ関係者を増やすことができた。

### 今後の展望

- 離島留学生コミュニティにおいて、中核となるメンバーとの意見交換、関係人口づくりに取り組む他自治体での取組の紹介/制度の紹介や拠点設立のアドバイスといった活動運営の伴走支援を行う。

## にかほ市の魅力ポイント

■面積 241.11 km<sup>2</sup> ■人口 約2万人

### ■松尾芭蕉が絶賛した風景

・かつては日本3景の松島に並び、「東の松島、西の象潟」と称された景勝地で、俳聖「松尾芭蕉」が「おくのほそ道」で最北の目的地として訪れた歌枕の地。

「象潟や雨に西施がねぶの花」

※雨に濡れて美しく咲くねむの花と、中国の傾国の美女・西施を重ね合わせた句

### ■鳥海山

・標高2,236mの独立峰で東北2番目の高さを誇る。

※山頂から海岸線まで直線距離で約16kmと近く、世界的にも珍しい地理的特徴

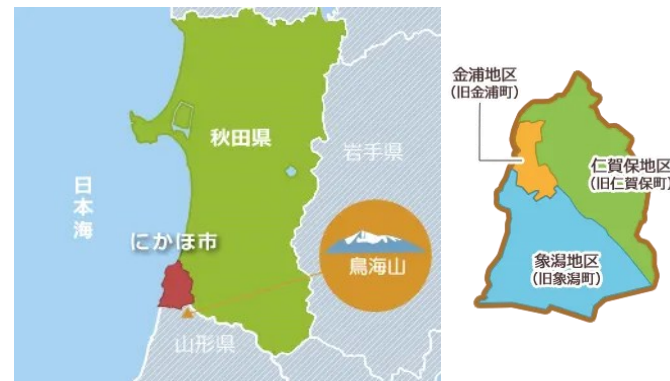
・森林や湿原、伏流水などの観光スポットでの登山、森林浴、散策などを楽しめる。

### ■雄大な自然が生み出す「食」

・室町時代から続く、日本で3番目に古い歴史をもつ酒蔵。

※平良泉（日本酒）：鳥海山の伏流水（硬水）を仕込み水に使用した「山廃仕込み」で酒造

・鳥海山からのミネラル豊富な伏流水が日本海に流れ込み、良質なプランクトンを育て、肉厚で濃厚な岩ガキ。



## にかほ市の課題

## ■ 政策分野 関係人口、担い手不足 (農業)

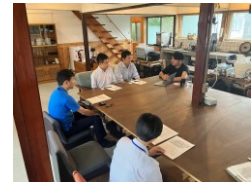
- 新規就農・就業者の確保
- 農業繁忙期の副業的な労働力の確保
- 農村集落の抱える課題への対策 (荒廃農地の増加対策、生活環境維持対策等)



## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 令和7年5月活動開始。月1回程度のWEB打ち合わせや定期的な意見交換を実施。
- 現地視察は7月に実施。市長・民間事業者との意見交換、主要観光地の九十九島・道の駅を視察。現地の状況を整理し、応援隊の取組課題を設定した。
- にかほ市での農業の現状と課題に対するアンケートを実施。  
※市内で農作物を生産されている農家約600名を対象。  
繁忙期の労働力確保、冬季雇用、副業への関心を調査する。(3月取りまとめ)
- 関係人口に関する国の補助事業を紹介。



### 今後の方針

- アンケート結果を分析・評価することで、課題を深掘し現場のニーズを把握する。
- にかほ市で活用できる補助事業を検討し、具体的な取組を計画する。

## 大潟村の魅力ポイント

■面積 170.11km<sup>2</sup> ■人口 約2,900人 ■指定地域 豪雪・半島

空から見た大潟村



桜・菜の花ロード



日本一低い山「大潟富士」



用水路での水上スキー

米作りのために湖を干拓して誕生！

## 1 特徴的な歴史

大潟村は、戦後の食糧危機を背景に、米の増産等を目的として**1964年**に誕生した村です。日本で2番目に大きかった湖「八郎潟」を**20年**かけて**干拓**し、6世帯14人で村がスタートしました。

広大な農場で営まれる

## 2 安定した大規模農業

村の歴史から見ても分かるように、大潟村の基幹産業は農業です。**住宅や役場などを集約することで広大な農地が効率よく整然と配置**されており、一戸当たりの平均経営面積は約20haと広大で、農家の収入は比較的高く、**耕作放棄地もありません**。

水上スキーやバードウォッチングも！

## 3 特色ある観光・アクティビティ

村の中央を南北にまっすぐ貫く中央幹線排水路は、勾配がほとんど無く防風林によって波も立たないため、非常に穏やかです。**その特徴的な環境が水上スキーやローイングに適しており、毎年首都圏の大学サークル等が合宿しています**。

また、一部区画が**国指定大潟草原鳥獣保護区**に指定されており、幻の鳥といわれたオオセッカなど希少な草原性鳥類の繁殖地となっており、**冬季はバードウォッチングが楽しめます**。

秋田駅から車で  
約1時間男鹿半島の  
東側に位置

大潟村

男鹿市

男鹿駅

秋田市

秋田駅

八郎潟駅

## 大潟村の現状・課題

■ 政策分野 観光振興・担い手確保

## 農業

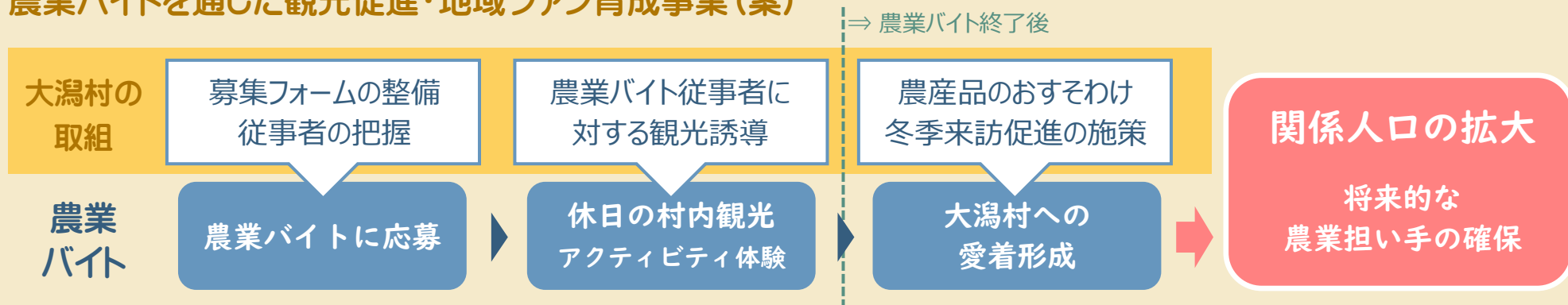
基幹産業である農業が安定して営まれている一方、人口減少などにより農家戸数は減少しており、村として**将来的な担い手不足**に危機感を抱いている。

## 観光

道の駅や博物館、大潟富士などの観光スポット、水上スキーなどのアクティビティといった地域資源があるものの、通過型観光の傾向が強く、**地域資源を生かした観光施策や関係人口創出**ができていない。

## 応援隊の活動報告

## 農業バイトを通じた観光促進・地域ファン育成事業(案)



現在  
取り組んで  
いること

- ① 農業バイトの現状把握のため、**村内農家に対するアンケートを実施**
- ② 令和8年度実施予定の**モニターツアー**に向けた内容検討
- ③ 募集フォームの整備について、一般に使用されている**農業バイト募集プラットフォーム**の活用検討

佐久穂町の魅力ポイント ■面積 ●188.2km<sup>2</sup> ■人口 約1.0万人 ■指定地域 過疎、振興山村等

## ○地理的特徴

長野県の東部に位置し、西は北八ヶ岳や八千穂高原、東は茂来山や古谷溪谷を望み、町の中心を南北に千曲川の清流が流れる自然豊かな町。

町の約8割が森林と林野率が高く、標高800mの高冷地にあるため、一年を通して日照時間が長く、少雨で寒暖差が大きい。



## ○農業の多様性

水稻、野菜（高原野菜・有機野菜）、花卉（アルストロメリア・カーネーション等）、果樹（プルーン・りんご等）、そば、酪農（酪農・養豚・養鶏）など多種多様な農業が営まれている。

特にプルーンは日本一のプルーン産地である長野県においてその中心地域となっており、特産品としてブランド化が進められている。



## ○八千穂高原の植物

北八ヶ岳東麓に広がる高原で、日本三大原生林の一つに数えられる深い原生林のなかにいくつもの天然湖が点在し、四季折々の美しい風景や、太古の昔を彷彿とさせる神秘的な風情を繰り広げている。



## 佐久穂町の課題

### ■ 政策分野 農業振興

#### ■ プルーンのブランド化

- 都内でのマルシェやカルチャー教室など様々な取組を行ってきたが、町が出荷調整やとりまとめを担い、町主導でブランド化を進めていることから、事務的負担を軽減して上手く取り組む方法を模索している。

#### ■ 果樹農業研修制度

- 地域おこし協力隊制度を活用して、収入を確保しながら技術の習得を目指す町独自の研修制度を運用しており、そのトレーニングファームの生産設備の整備について既存の補助金を活用しているものの多額の費用を要している。

#### ■ 経年による施設の老朽化

- 農業用水の配管や堆肥を活用する土づくりセンターなど、整備から年数が経過し、漏水や機械設備の機能低下が顕著であり更新時期に差し掛かっている。



トレーニングファームの生産設備  
(りんご栽培のためのトールスピンドル)

## 応援隊の活動報告

#### ■ 情報提供

- 各種課題に活用可能な支援制度について情報提供。

#### ■ 今後の取組

- 土づくりセンターについて、施設・設備更新のハード面のみならず、良質な堆肥製造や町内での有効活用のための検討会議などのソフト面での関わりを通じて町が目指す環境保全型、循環型農業の推進に寄与する。



土づくりセンターの内景

## 阿蘇市の魅力ポイント

■面積 376 km<sup>2</sup> ■人口 約2.4万人 ■指定地域 振興山村、過疎地域

### ○活火山を間近で体感できる

阿蘇市は、世界最大級のカルデラを有する雄大な阿蘇の自然景観が魅力的です。

阿蘇山の中心部にある火口では、火山活動の状況によっては火口付近まで行くことができます。



### ○広大な草原

阿蘇市は野焼きによって維持されている広大な草原景観が魅力的です。阿蘇パノラマインでは、草原の中を車で走行することができ、放牧されている牛を見ることができます。人気のドライブルートの一つです。



### ○みちのえきにおける農産物直売

阿蘇地域では、道の駅の直売所において、地元で生産された新鮮な農産物が販売されています。



## 阿蘇市の課題

## ■ 政策分野 農業振興・観光ほか

## 農業

- 熊本地震で被災した市道狩尾幹線沿線の山腹復旧に向けた総合支援を要望。熊本地震で被災した市道を農道として再活用したいが、事業規模が100億円を超える見込み。
- 有害鳥獣による被害が増加傾向にあり、これは農林業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地や管理されない森林の増加等が背景にある。今後は、ジビエとしての活用も含めた有効な対応策を検討する必要がある。

## 観光

- 草原管理において、保安林では野焼きが許可されておらず、また、急傾斜地の保安林内部は管理が行き届かないことから、水源涵養や土砂災害防止の観点で危険が高まっている。阿蘇市には2万2千haに及ぶ草原が存在しており、作業の安全性向上・負担軽減、人手不足等の観点から、保安林の一部を草原に転換することも含めて検討が必要である。
- 観光地となっている特殊なガラス構造のバラドームは、建設から20年以上経過し、老朽化が進んでいるが修繕を引き受ける業者が見つからず、解体も選択肢の一つとして検討されている。一方で、隣接する指定管理者所有の施設も含め、施設一帯を道の駅として活用したいという要望がある。

## 応援隊の活動報告

## 【これまでの活動実績】

- 5月にオンラインで顔合わせを行い、6月に阿蘇市長、地域拠点担当も交えたオンライン会議を実施。阿蘇市の現状と課題を共有。
- 7月に1泊2日で阿蘇市を訪問。H28の熊本地震で被災した市道、観光の目玉でもある阿蘇の草原管理、有害鳥獣対策等の課題をはじめ、市内全域を視察するとともに、意見交換を実施。
- 11月にオンライン会議で改めて課題を整理した。それぞれが対応可能な事項を整理したうえで、取り組む内容を検討した。

## 【来年度の予定・方針】

- 1年目の検討を踏まえ、次年度以降の阿蘇市の課題を整理し、引き続き支援の要請があればサポートする。

隊員情報：伊藤 紗里衣 (農村振興局 農村計画課)、原田 拓也 (国土政策局 総務課)

## 山都町の魅力ポイント ■面積 544.67 km<sup>2</sup> ■人口 約1.3万人 ■指定地域 過疎、振興山村等

### ■ 山都町独自の文化に触れる観光スポット

- ・五穀豊穡願いを込めて、約260年の歴史を持つ「八朔祭」
- ・白糸台地に水を送る「国宝 通潤橋」
- ・九州で唯一の人形浄瑠璃が楽しめる場所「道の駅 清和文楽邑」



竹、杉、すすき、松かさ等の自然の材料を使って作る、町を練り歩く「大造り物」



国宝 通潤橋の放水

### ■ 有機農業全国No.1のまち

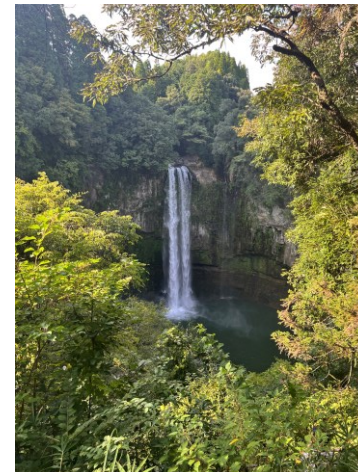
- ・50年以上前から有機農業に取り組み、有機JAS認証事業者数は全国最多
- ・冷涼な気候を活かし、水稻や夏秋野菜（トマト、キャベツ等）を中心に生産
- ・令和4年には「有機の学校」を開校！



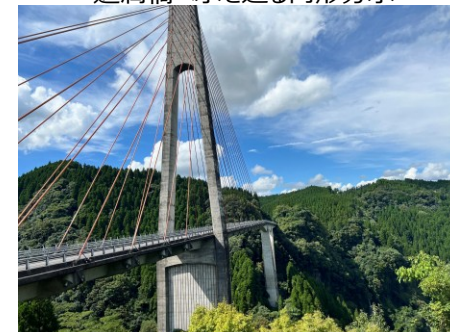
通潤橋へ水を送る円形分水

### ■ 九州脊梁山地がもたらす自然

- ・山都町内に数ある滝の中で最大級の滝「五老ヶ滝」
- ・高さ200mの絶壁が10 km以上続く「蘇陽峡」
- ・溪谷の絶景を体感できる「鮎の瀬大橋」



五老ヶ滝



鮎の瀬大橋

## 山都町の課題

## ■ 政策分野 農業振興・都市計画整備

### ■ 鳥獣被害対策について

- 計画以上の捕獲頭数への助成金や防止対策費を多額の町費で賄っており、年々増加傾向である。
- 山都町の捕獲頭数が町で唯一のジビエ工房やまとでの処理可能頭数の上限を迎えている。
- 高齢化により罠の見回りが適切に行われていないため、捕獲から止め刺しまでに時間がかかり、ジビエとして利用できない場合がある。
- 中山間地での罠の見回り・捕獲に効果的なICT機器の決め手がない。

### ■ 住環境の整備について

人口減少が急速に進んでおり、移住定住対策の一環として学校跡地を含む町有地（学校跡地）を活用した宅地整備を計画しているが、立地利便性、残存物の解体・撤去費用が重しとなり計画が進んでいない。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 月に1回程度のWEB会議を実施し、現場における課題・問題意識の把握を実施。活用できそうな補助金・制度を紹介。
- 令和7年9月に現地を訪問し、町のジビエ処理施設、移住者を対象とした住宅、圃場等を見学し、町長との意見交換、施設担当者、移住者、有機農業の学校の講師との意見交換を実施。
- 10月には鳥獣被害担当者を交え、ICT機器の選定やと体処理の方法について意見交換及び情報提供。
- ICT機器の他市町村での優良事例の共有、環境影響評価の必要性を踏まえと体処理の手法としてコンポストを紹介。

### 今後の方針

- 引き続きヒアリングを実施し、各地の自治体の事例を紹介するとともに、活用できそうな制度・補助金について情報提供。
- 農水省×国交省で連携できる施策を提案できるよう検討。

## 日之影町の魅力ポイント

■面積 約278 km<sup>2</sup> ■人口 約3,000人 ■指定地域 振興山村 過疎地域

## ■ 溪谷 (けいこく) の町

宮崎県の最北山間部に位置し、町土の91%を山林が占める。緑に囲まれた町の真ん中には、県の5大河川のひとつ、五ヶ瀬川が流れ、北部には日之影川が流れ、深い溪谷を形成している。

## ■ まちの名前の由来

日本神話に登場する三毛入野命 (みけいりののみこと：神武天皇の兄) が鬼八退治に向かう途中大雨が降り、神に祈ると不思議なことに雨が止み、「日の影 (雲間の日射し)」が射し、『なんと有難い日の影か』と語ったという。その神話がこの町の名の由来となっている。

## ■ 特産物

栗・柚子の生産地で、その品質は市場関係者から高く評価されており、需要が高い状態が継続。

## ■ 神楽のまち

作物の実りへの感謝と五穀豊穡を祈願し、神社などで、神楽が奉納される。

深角、岩戸、四ヶ惚、岩井川の四つの流脈があり、各地区で毎年11月から2月にかけて神楽を舞う。



## 日之影町の課題

■ 政策分野 農業振興

- 日之影町は、栗・柚子の生産地で、その品質は市場関係者から高く評価されており、需要が高い状態であるものの、生産者の減少や高齢化による収量の低下、後継者不足、獣害被害（イノシシ、シカ）など町の基幹産業である農業において、複合的な課題に直面している。

## 応援隊の活動報告

### これまでの活動

- 1～2か月に1回程度のWEB会議を実施し、現場における課題・問題意識の把握を実施。
- 令和7年9月に現地を訪問し、町内の栗の収穫現場や加工現場の調査、農家や加工業者から現状・課題の聞き取り、町役場担当者と農業における課題についての意見交換を実施。
- (一財)日本グラウンドワーク協会が実施している、地方を応援する大学生サークルとの農村マッチング事業を紹介。他地域で行っている学生×地域の連携事例の紹介や、学生との連携に向けた予算の確保方法（第2世代交付金の活用）の紹介するなど、大学生との連携の具体化に向けた情報交換を実施。



現地視察の様子

### 今後の方針

- 来年度、地域活性化に向け、宮崎大学の学生と連携し、特産物である栗を活用したイベントの運営や広報活動等を実施予定（町予算確保済み）。学生との連携が持続的なものになるよう、日之影町と大学生がwin-winの関係となるようにサポートしていく。

## 志布志市の魅力ポイント

■面積 290.21km<sup>2</sup> ■人口 約2.8万人 ■指定地域 半島・過疎

- 鹿児島県東部の大隅半島に位置し、**海、山、川などの豊かな自然**に囲まれる。
- 薩摩藩統治時代の面影を残す武家屋敷や、神社仏閣などの文化的な香りが溶け込む一方で、海岸部には亜熱帯性の植物も繁茂し、南国の雰囲気を感じられる。
- 温暖な気候とミネラルたっぷりの豊かな水に恵まれ、ウナギの養殖、お茶、黒牛、黒豚、焼酎等の生産が盛んな**食材の宝庫**。**ウナギの生産量は国内No.1の鹿児島県の中で約半分のシェア**を占める。
- 豊富な地場産品を活かし、2023年の**ふるさと納税総額は県内No.1!**
- 冬春ピーマンの指定産地であり、**地域ぐるみで新規就農を支援**。農業公社の研修プログラムを活用し、2021年までに延べ136名が修了、このうち約7割が定着している。



- 南九州地域の物流拠点であり、**九州で唯一の国際バルク戦略港**に選定された志布志港が存在する。
- 日本で一番「志」の字が多い「志」あふれる市!

志あふれるまち

鹿児島県  
志布志市SHIBUSHI  
KAGOSHIMA, JAPAN

## 志布志市の課題・取組状況

■ 政策分野 産業振興・人口減少対策

## ■ 志布志港の更なる輸出拡大

【現状】 輸入に対して輸出が少ない。

(2024年の輸入額は約1,953億円、輸出額は約417億円)

【取組】 地場製品のブランド力を確立し、産直港湾を目指して輸出販路拡大を目指す。

## ■ 人口減少による地域の担い手不足

【現状】 現在の約3万人から、2040年には2.2万人になるという推計。

(高齢化率も36.1%→41.0%に)

【取組】 移住定住の促進や新規就農者への支援の他、拠点施設の整備、首都圏でのPR活動を行う。

## 応援隊の活動報告

## ● 月に一度のヒアリング (オンラインと対面)

→ 現状共有と課題解決に向けたディスカッションを実施。また、国の施策や他自治体の施策を提案。

## ● 現地視察 (九州農政局鹿屋駐在所と連携)

→ 市の関係部局をはじめ、新規就農拠点や国交省港湾事務所などでの意見交換を実施したほか、港のコンビナートや茶の加工工場を視察し、地域の課題について整理。

## ■ 今後の方針

現地への訪問だけでなく、首都圏で開催されるPRイベントに参加するなど、地域外での取組を支援するとともに、志布志市とのコミュニケーションを継続し、支援事業の提案や先進事例の紹介等を行う。